【新見労働基準監督署Web講習会シリーズ】 注意!! 行動災害(転倒、腰痛等)が増加しています

## SAFEコンソーシアムについて



#### 行動災害発生状況まとめ

- > 労働災害は特に第三次産業で増加傾向
- ➤ その内訳は、転倒や腰痛などの行動に起因するものが多い

# 背景

- **◇産業構造の変化(第一次・第二次産業から第三次産業へ)**
- **◇労働力の高齢化・・・しかし若年世代でも労働災害は増加**

### その他の背景

## 人手不足

働き方の多様化 (フルタイム・終身雇用→パートタイム・短期間の契約)

## 顧客第一

第二次産業との文化の違い

対策に取り組むメリットが不明

これまでのアプローチでは労働災害を減少させられなくなっている。

労働災害を社会問題としてとらえ、ステークホルダー全員で 解決策を考えて取り組む必要がある。

働く人と、全ての人の幸せのために。

#### SAFEコンソーシアム

Safer Action For Employees (SAFE) を旗印に

すべてのステークホルダーが一丸となり、

働く人と、全ての人の幸せのために、

安全で健康に働くことのできる

職場環境の実現のため取り組む。



### SAFEコンソーシアム

## SAFE推進幹事会

- ・厚生労働省
  - ・関係省庁
- ・労使団体

### 企業・団体メンバー

- ・一般メンバー(企業・団体・労働組合)
- ・あんぜんプロジェクトメンバー(企業)
  - ※ロイヤルメンバー
- ・安全で安心な店舗施設づくり推進運動
  - 参加メンバー







サポーター

## **SAFE** 推進アドバイザー

労働安全衛生の専門家(資格者) ・労災防止ソリューション団体

地方協議会構成員メンバー (小売・介護施設)

従業員・個人メンバー

#### SAFEコンソーシアム

## SAFE コンソーシアムが目指すところ

- ⇒労働災害を自分ごととしてとらえ、解決策を考えていく機運をつくる
- **➢顧客だけでなく、従業員の安全第一のための取組をステークホルダー全員で推進する**

## SAFE コンソーシアムの取組

- 労働災害問題の協議・周知(シンポジウム)
- SAFEアクションの共有、コンソーシアム事務局 主催イベント等による**マッチングによる** SAFEアクションの創出
- SAFEアクション優良事例の表彰、コンソーシアム 内外への発信(SAFEアワード)
- 参画メンバー及びコンソーシアム認知向上 (ロゴマーク、バナー等)

## 参画メンバー(企業、団体、個人) の募集を開始!

#### SAFE アクションの例

●企業における取組

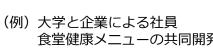
(例) 腰痛予防体感教育



(例) 転倒防止のための 靴のすり減りの見える化

●マッチングによる取組

(例) フィットネス企業の監修による 労災防止にも効果のある体操の開発 食堂健康メニューの共同開発



#### 地方協議会について

#### SAFEコンソーシアム (全業種) 本 省

加盟団体が連携し、表彰(SAFEアワード)や広報活動の 実施を通じて、目標達成のための国民運動を推進

- ・協議会構成員の参加
- ・アワードへの応募

労働局

管内のトップ企業

SAFE地方協議会 (小売・介護施設)

管内企業を構成員とし、意見交換や広報活動等の取組を実施

複数店舗を経営する中規模程度の企業

労働局

支援を通じて協 議会構成員への 追加を目指す

都道府県労働局が個別に企業の課題発掘・取組実施を支援

+Safe(SAFE)育成支援(小売・介護施設)

その他の企業

※コンソーシアムに参加することも考えられる



その他労働局・監督署における実施事項(継続)

臣上叔宝

- 店舗密集型施設における周知啓発
- ・ 関連団体・機関との連携による効果的な周知啓発
- ・ 転倒災害を発生させた事業場に対する自主点検の実施要請

### SAFEコンソーシアムポータルサイト



## ご清聴ありがとうございました